

三重県の土地改良事業紹介 34

畑地帯総合整備事業 金山南部地区について

熊野農林商工環境事務所農村基盤室基盤整備課
技師 松尾祐弥

①地区の現状

当地区は、三重県の南部熊野市に位置し、熊野灘に面した気候は温暖で降水量が多く柑橘栽培に適した地域です。

『柑橘』は経済活動を支える重要な産業ですが、生産者の高齢化や混住化が進み耕作放棄地が年々増加している状況であり、優良農地を守る上では消費者ニーズに応じた売れるみかんの生産が必要です。現在紀南地区のみかん栽培の主力は従来の温州みかん栽培から、出荷時期が早期になるハウス栽培や雨水を遮断し、樹にストレスをかけ育てるマルチ栽培に移行しています。点滴かんがいによるマルチ栽培のみかんは糖度も上がり、より品質を高め高価で市場に流通しており本地区の整備において最大の目的はマルチ栽培への園地整備です。



計画平面図

②事業の概要

畑地帯総合整備事業 金山南部地区は、S39年～S45年にかけて県営開拓パイロット事業金山地区(造成面積49ha)及びS48年に構造第二次改善事業(造成面積15ha)により造成された樹園地のうち32.7haを受益地としてH18年に計画されH19年度より実施しています。また、事業内容については農業用排水施設と農道及び農作業準備休憩施設を整備する計画です。

③整備計画のうち

『マルチ栽培への園地整備』において重要な役割を果たす用水施設整備の点滴かんがいについて紹介させていただきます。

点滴かんがいは「平成8年度かんきつ園かん水方法試験成績」及び「効率の良いかん水手法について(試験報告)」



マルドリ方式のシステム

が提出され紹介されました。また、水源の乏しい地域での少量のかん水手法として、そして計画的なかん水を行うマルチ栽培には最適です。

畑地かんがい

の用水施設として主に整備されていたスプリンクラーはヘッドからの距離によって土中への浸透深が異なり浅くなってしまうのに対して、点滴かんがいは根元に直接、局部かんがいをするため、均一に土中に深く浸透します。

点滴かんがいはその名の通り点滴のように「ポタポタ」と水が落ちます。そこで末端の配管材で目詰まりを起こさないように『ユニット(フィルターの設定、液肥混入機、かん水を自動に行うための電磁弁、流量計など)』を施工する必要があります。



ユニット工



マルチ栽培

ユニットの仕様についてはH9～H13に実施した県営緊急畑地帯総合整備事業金山・久生屋地区を参考にし、また熊野農政・普及室の助言・打合せを行い標準設計が考えられました。

④金山南部地区の実施状況について

当地区は北ブロック(リース農園)と南ブロック(パイロット農園)に分けられており、北ブロックについては、用水施設(貯水池⇒送水管⇒配水槽⇒配水管⇒ユニット⇒支線⇒末端)は配水管まで完了しています。貯水池は北ブロック、南ブロック両方に供給する水源地です。〔北ブロックほ場面積A=13.7haうちH22年度末でA=10.9ha施工完了予定〕排水路、農道も整備中です。そして南ブロックはH23年度の着手を予定しています。

本事業の目的である高品質のみかんが安定的に収穫出来るようなまた、営農者の負担が軽減できるよう関係者との連携を密にし、引き続き整備を進めていきたいと考えています。